

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.47

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### 岩手大学三陸復興推進機構企画展 開催 「東日本大震災における岩手大学の復興推進活動 ～被災地とともに希望の創出～」

10月21日から11月4日にかけて、岩手大学図書館アザリアギャラリーを会場に、岩手大学三陸復興推進機構企画展「東日本大震災における岩手大学の復興推進活動～被災地とともに希望の創出～」を開催しました。

岩手大学は、東日本大震災以降、「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」をスローガンに掲げ、「岩手大学三陸復興推進機構」を核に、現地の方や復興庁、岩手県、沿岸自治体、NPO、各種団体等と連携しながら様々な震災復興推進活動に取り組んでいます。

企画展では、三陸復興推進機構6部門（教育支援、生活支援、水産業復興推進、ものづくり産業復興推進、農林畜産業復興推進、地域防災教育研究）の活動をパネルやビデオで紹介するとともに、沿岸企業と共同で開発した商品や塩蔵ワカメの加工補助装置や水中ロボットなどの研究成果品も展示しました。

また、本学と関わりのある震災関連書籍の展示コーナーでは、地域防災研究センターが作成した地震などの自然災害に対する知識を遊びながら学ぶことが出来る「地震防犯かるた」などを展示し、来場された方々に実際に手にとってご覧いただきました。

岩手大学図書館では、東日本大震災をはじめとする自然災害の記憶を後世に伝えるため、自然災害関連資料を収集し、整理・保存・公開する取組を行っており、これらの書籍は、閲覧することもできます。

土日祝日には、企画展と併せて三陸沿岸の物産展も行い、

沿岸企業との産学官連携商品や学生がボランティア活動で行っている施設の利用者の手芸品などを販売し、売上の一部を「いわての学び希望基金」に寄付させていただきました。

今回、企画展に来場された多くの方々から、「大学が地域に貢献できることは多く、また、地域からの期待も大きい。地に足を付けて、さすが地元の大学と言ってもらえるような活動に期待します」、「これだけ広範囲でしかも深い視点で支援を継続されていること、本当に素晴らしいと思いました」、「被災地の国立大学として積極的かつ熱心に被災地と関わっている様子が伝わり、岩手大学の姿勢に心うたれました。復興は長期にわたることなので今後とも岩大パワーに期待します」などの感想が寄せられました。

今後も復興推進活動を継続しながら、活動内容についても伝えていき、地域に還元できるような努めてまいります。



企画展の様子

#### サイドイベント

10月24日に企画展のサイドイベントとして「岩渕学長と復興推進活動を行っている学生たちとのミーティング」を開催しました。

三陸復興推進機構生活支援部門のボランティア班、心のケア班、被災動物支援班、地域コミュニティ再建支援班で活動している学生たちがそれぞれの取組を報告し、学生からは大学への要望、岩渕学長からは心のケア班と被災動物支援班の連携の提案など、活動をより良いものにしていくための意見交換を行いました。普段は各班別々に活動しており、学生たちにとってもお互いの活動を知ることにより、今後の活動に向けてプラスとなるミーティングになりました。



岩渕学長(奥)の話に耳を傾ける学生たち

#### 企画展を通して深めたつながり

教育支援部門学習支援班では、NPO法人ソーシャルハーツと共同で大槌町の高齢者支援施設「ぬくっこハウス」の利用者を対象とした生涯学習事業のボランティア活動を行っています。

11月1日に、「ぬくっこハウス」の利用者の方々から岩手大学を訪れ、学習支援班の学生たちと一緒に、本企画展や利用者の方々で作った籠やアクセサリーを販売して見学しました。

また、「ぬくっこハウス」の利用者の方々、ボランティア学生との再会を喜ぶとともに、参加した学生から大学生生活の説明を受けるとキャンパス生活に興味を持たれ、学生たちと交流を深める良い機会となりました。



秋晴れのもと、見学を楽しみました

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、津波被害を受けた岩手の干潟の底生動物の生息状況について調査を進めている水産業復興推進部門の活動の一例をご紹介します。

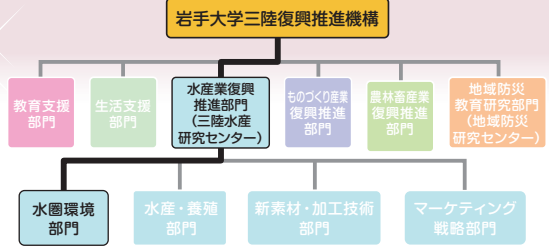
## 津波被害を受けた岩手の干潟における底生動物群集の回復状況

岩手大学三陸復興推進機構 水産業復興推進部門 水圏環境部門  
木下 今日子（三陸水産研究センター 特任研究員）

水圏環境部門では、三陸の「水」をとりまくさまざまな環境（森・川・沿岸域）で調査を行っています。今回は、岩手の干潟でくらす底生動物（貝やゴカイ、カニなどの海産無脊椎底生動物）を対象に、東日本大震災の影響からの回復状況について紹介します。

宮古市の津軽石川、山田町の織笠川、釜石市の鶴住居川にある河口干潟は、環境省が震災以前に、全国の干潟の基礎調査を実施した調査地に選定している重要な場所です。岩手の干潟は震災時の津波で大きな攪乱を受け、さらに地盤沈下によってその面積は減ってしまいました。岩手大学では、牧陽之助 人文社会科学部教授が中心となり、震災直後の2011年から干潟の底生動物の生息状況の調査を開始しました。そして牧教授が2012年に逝去された後も、先生の遺志を継いで調査を継続しています。これまでの調査の結果、震災前に生息していた底生動物のうち、震災後の津軽石川では87%、織笠川では78%、鶴住居川では92%の底生動物が確認されました。このことから、多くの底生動物は震災の影響から回復しつつあることが明らかになりました。

岩手の干潟の底生動物は、水産資源としてあまり利用されておらず、市民



との直接的なつながりはほとんどありません。しかし、底生動物は魚にとって重要な存在です。たとえば、ウナギ（ニホンウナギ）はなじみ深い食材ですが、その資源は急速に減少し、現在は環境省の第4次レッドリストに掲載されています（絶滅危惧IB類）。近年の研究により、ウナギはアナジャコを食べていることが明らかになりました。また、カレイ類の稚魚はインソジミの水管や、多くの底生動物を餌として利用していることがわかっています。このように、底生動物は三陸の魚類資源を維持する上で欠かせない存在なのです。

底生動物を含めた干潟は、地域の大切な資源です。私たちは調査を通じて干潟の資源を可視化することにより、三陸沿岸の復興に寄与したいと考えています。



アナジャコ  
九州では食材として利用されています



イソジミ  
貝の右側に伸びる白い水管は、魚に食べられても再生します

## 釜石サテライトだより

### ●釜石サテライトのランチ事情

釜石サテライトは工場や研究施設のような建物が並び埋立地に置かれています、そのためお昼ごはんを食べる場所が限られています。

1.1 キロ内陸側にあるスーパーマーケットが釜石サテライトから一番近い食べ物を食べる場所です。

このスーパーマーケットは地元の買い物客だけではなく復興事業に従事していると思われる大型トラックの運転手さん等も多く訪れています。そのため震災前と比べるとボリュームのあるお弁当やお惣菜が充実しており値段も手頃なので釜石サテライトの職員も足繁く通っています。

海に近いためお刺身も手頃なものが多く、お刺身を買ってきてサテライトで頂くという少し贅沢なランチを楽しむことも可能です。

みなさんも釜石サテライトにお越しの際は地元のスーパーで昼ごはんを買って食べてみてはいかがでしょうか？地域に根ざした食べ物を安く楽しむことができるのでおすすめです。



購入したコロッケ、タイミングが良いと揚げたてがゲットできることも

### ●岩手大学公式 Youtube チャンネル

11月現在、「岩手大学公式 Youtube チャンネル」で公開されている6本の動画のうち3本が釜石サテライトで製作された動画です。

この3本の動画は地域コミュニティ再建支援班の活動や被災コミュニティの現状を知ってもらうために作られたものです。

これまではシンポジウムや企画展などで上映してきましたが今後はインターネット上で視聴が可能となりました。

現在もいくつかの動画の製作を行っていますので是非、岩手大学公式 Youtube チャンネルをご視聴していただければと思います。



↑動画編集の様子



←岩手大学公式 Youtubeチャンネル

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

### 連絡先 岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト

〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1  
TEL:0193-55-5691(代表)/FAX:0193-36-1610  
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp  
URL: http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/

## Information

### 心のケア班では第2回市民講座を開講します。

/\*よい関係づくりのための話の聴き方！/\*

(前半)傾聴って何だろう？(後半)傾聴の感じを味わってみよう！

★平成27年12月17日(木)18:30~20:15 陸前高田市コミュニティホール・中会議室

★平成27年12月19日(土)13:00~14:45 岩手大学釜石サテライト・セミナー室

/\*子どもの発達からみた理解と対応\*/\*

(前半)子どもの発達(後半)発達の偏りの理解と対応、発達障がいとは？

★平成28年1月29日(金)18:30~20:15 大船渡市リアスホール・1F会議室

★平成28年1月30日(土)13:00~14:45 岩手大学釜石サテライト・セミナー室

\*参加方法\*：宛先に以下の内容をお知らせください。

・件名「心のケア班市民講座」・氏名・連絡先・参加希望日(複数可)

連絡先は、中止等の緊急の連絡を受け取れるものをお願いします。

\*宛先\*：メール・FAX・電話のいずれか。

【メール】heart@iwate-u.ac.jp 【FAX】0193-36-1610 【電話】0193-55-5691



### 第5回全国水産系研究者フォーラム

岩手大学では、東日本大震災後の水産業の復興を図るべく全国から水産系研究者の知見を集結し、新たな水産資源の活用方策を探るとともに、岩手県民・自治体・関係団体との協力で、水産系分野の研究拠点形成を目指して、東京海洋大学・北里大学との共催で「全国水産系研究者フォーラム」を開催します。

■日時：平成27年12月19日(土)13:30~16:30

■会場：東京海洋大学品川キャンパス白鷺館1階講義室



#### 【プログラム】

●基調講演「売れる水産物を造るためにはどのような努力が必要か」

垣添 直也 元日本水産(株)代表取締役社長

●パネルディスカッション

「岩手大学三陸水産研究センターを研究教育拠点として確立するための3大学連携の今後のあり方」

入場無料

問い合わせ先 岩手大学三陸復興支援課(佐々木・田村)

電話：0193-55-5691 E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp

締切り 開催日2日前 問い合わせ先 岩手大学釜石サテライト 電話：0193-55-5691